

科目名	作業療法評価学演習Ⅱ (身体・老年期・発達障害)	担当教員	三宅 環※ 久保 勝幸※ 佐藤 拓也※ ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	-----------------------------	------	-----------------------------------------------

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
作業療法学専攻	専門科目	選択	2年次	後期	1単位	演習
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR22E	①、②					

科目概要	作業療法の介入における評価過程は、介入の第一歩であり、治療・指導・援助の介入方法を思考するために欠くことのできないものである。そこで、本科目では、作業療法評価学で学習した内容をふまえて、中枢神経疾患および末梢神経疾患および発達障害に対する専門的な検査方法について演習を行い、測定方法を理解する。またその際の特徴的な動作（代償方法、障害に特有の動作等）についても観察、考察できるようになることが目標である。また、観察したことから障害の原因を分析し、問題解決能力を養う。
学習目標	① 末梢神経障害に特有な評価について手順を理解し、実施できる。 ② 脳卒中を含む中枢神経障害の評価について手順を理解し、実施できる。 ③ 発達のスクリーニング検査について、手順を理解し実施できる。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	ガイダンス 末梢神経障害に対する評価(1)	神経誘発試験の演習	神経誘発試験の手順を理解し、実施できる。 結果を解釈できる。	久保
2	末梢神経障害に対する評価(2)	拘縮評価の演習	外在筋・斜支靭帯・内在筋拘縮の検査手順を理解し、実施できる。結果を解釈できる。	久保
3	末梢神経障害に対する評価(3)	反射検査の演習	反射検査の手順を理解し、実施できる。 結果を解釈できる。	久保
4	末梢神経障害に対する評価(4)	感覚・知覚検査の演習 (防御知覚・閾値・局在・二点識別・デロン物体識別検査・モバーグピックアップ検査)	知覚検査の手順を理解し、実施できる。 結果を解釈できる。	久保
5	感覚障害に対する作業療法	末梢神経障害、中枢神経障害による感覚・知覚障害の治療の考え方	感覚障害の治療の考え方を理解する。	久保
6	末梢神経障害に対する評価(5)	上肢機能検査の演習	上肢機能検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	久保
7	中枢神経障害に対する評価(1)	脳神経検査の演習	脳神経検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅
8	中枢神経障害に対する評価(2)	協調性検査の演習	協調性検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅
9	協調運動障害に対する作業療法	脳卒中を含む中枢性の協調運動障害 協調運動障害評価の演習	脳卒中を含む中枢性の協調運動障害、その評価および治療の考え方を理解する。	三宅
10	中枢神経障害に対する評価(3)	脳卒中を含む中枢性の運動障害および姿勢反射障害 姿勢反射検査の演習	姿勢反射検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅
11	筋緊張異常に対する作業療法	脳卒中を含む中枢性の運動障害および筋緊張異常について 筋緊張異常評価の演習	筋緊張異常の評価および治療の考え方について理解し、治療手技を体験する。	三宅
12	中枢神経障害に対する評価(4)	片麻痺機能テストの演習	片麻痺機能テストの手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅
13	中枢神経障害に対する評価(5)	FMA、MAL、SIASの演習	FMA、MAL、SIASの手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	三宅

14	発達障害に対する評価(1)	発達検査の演習 (1) デンバー式発達スクリーニング検査	デンバー式発達スクリーニング検査の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	佐藤
15	発達障害に対する評価(2)	発達検査の演習 (2) 遠城寺乳幼児分析的発達検査法	遠城寺乳幼児分析的発達検査法の手順について理解し、実施できる。結果を解釈できる。	佐藤
評価方法		筆記試験 (50%)・実技試験 (50%)		
課題に対するフィードバック		講義中、講義終了後に適宜行い、試験に関しては試験終了後オフィスアワーで対応する。		
教科図書		鈴木則宏・編『神経診察クローズアップ正しい病巣診断のコツ 改訂第2版』メジカルビュー社、2015年 『病気が見える vol. 7 脳・神経 第2版』MEDIC MEDIA、2017年		
参考図書		矢谷令子・監『標準作業療法学専門分野作業療法評価学 第3版』医学書院、2017年 鎌倉矩子、他・編『作業療法士のためのハンドセラピー入門 第2版』三輪書店、2006年		
学習の準備		予習：人体構造機能学、作業療法評価学および演習 I (身体・老年期障害) の知識を整理しておくこと。 復習：講義での不明箇所を調べ、理解を深めること (合計 45 分)		
オフィスアワー		講義当日の 16 時 30 分～17 時 30 分、講義翌週当日の 16 時 30 分～17 時 30 分		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験		<p>久保勝幸は、民間病院で末梢神経障害における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。</p> <p>三宅環は、民間病院で中枢神経障害における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。</p> <p>佐藤拓也は、民間病院で発達障害における作業療法の実務経験を有しており、本講義においてその経験を活かしてより実践的な指導をすることができる。</p>		